



かけはし

教育目標

- 学び合う子
- つながり、支え合う子
- たくましい子



武蔵村山市立第九小学校 令和7年10月31日

人生の「よき先輩」としての矜持をもって

生活指導主任 主幹教諭 及川 貴史

子供のころ、好きなアニメのキャラクターやスポーツ選手、先輩の姿を見て「あのようになりたい。」と動きや言葉遣いを見よう見まねでやっていたことがありました。今でも、たまに、誰かの仕草や口ぐせを自然とやっている自分がいます。このように、「憧れの存在」「自分にとってのロールモデル」は誰にでも(少なくとも一人は)いるのではないのでしょうか。

先日、全校遠足に行ってきました。各班の6年生を中心に、安全に、楽しく時間を過ごすことができました。班ごとのめあてを話し合い、さらに自分のめあても一人一人考えて立て、遠足が成功するようにみんなで取り組みました。

そのような全校遠足を作り上げていくために、私たち教師は、学年ごとに以下のねらいをもって指導を進めてきました。



全校遠足の様子から

低学年：約束を守って行動する。上級生への感謝の気持ちをもつ。

中学年：低学年のお世話をするとともに、身の回りのことは自分で行う。

高学年：どのようにしたら全学年が楽しめるかを考えながら遊びやルールを工夫する。

役割と責任をもって、集団のために力を発揮する。

教師と6年生で1年生を迎えま



学校では、自然と「上学年のように」という意識がもてる環境があり、その環境の中でそれぞれが学び、行動し、成長をしていきます。そして子供たちは、その規範(憧れの存在・ロールモデル)を学校では「教師」に、家庭では「保護者」に求めています。つまり、子供たちの成長の一端を担っているのは、私たち「おとな」の存在と言えるのではないのでしょうか。ことわざにも【親(≡おとな)の背を見て育つ】と

という言葉があるように、低学年の学びには高学年の姿が、子供たちにとっての学びは私たちおとなの存在がとても重要な役割を担っていると思います。だからこそ、子供の心身健やかな成長を促す「おとなの役割」を今一度確かめて、学校・家庭・地域で協力し合いながら本校の教育目標に向かっていける子供たちを育てていきます。